

第3学年1組 学級活動（食育）指導案

平成29年2月9日（木）公開授業 I

会場 1階-W

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
教諭 八幡 昌樹
栄養教諭 五十嵐 忍

1 題材名 めざせ！和食マイスター ― 続けよう 和食 ―

2 本題材の価値

本題材は、学習指導要領特別活動編の以下の項目を受けて設定したものである。

共通事項

(2) 日常生活や学習への適用及び健康安全

キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

また、食に関する指導の手引の以下の内容も受けている。

食に関する指導の内容

○ 食文化

各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ

加えて、第3次食育推進基本計画「重点課題5」の内容も受けている。

重点課題5 食文化の継承に向けた食育の推進

本題材の目標は、次の通りである。

普段の食生活で行っていることが、和食文化の継承にかかわることに気付き、食文化の継承という視点をもって食生活を送ることができる

本題材で「和食」とは、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食：日本人の伝統的な食文化」を意味し、個々の料理や献立ではなく、伝統的な食文化全体を示している

生活様式の多様化等により、家庭で家族が食事を共にする中で伝えられていた食事の際の作法、地元の食材を使った郷土料理の作り方等、伝統的な食文化が十分に継承されず、その特色が食生活から失われつつある。

伝統的な食文化の要素の一つである、食器の置き方を例にすると、正しく食器を置いている子どももいれば、給食当番に置かれたまま給食を食べている子どももいる。また、置き方を知っていても直さない子どももいる。子どもは、不都合を感じないため、食器をきまった場所に置き換えようという行動はあまり見られない。食器の置き方は、伝統的な食文化の作法に基づいたものである。食器を手を持って食べるという和食独自の作法を背景に食器の配置がきめられているのである。行為だけを教えるのではなく、子どもが、どうしてこのようにすることがよいことなのか、和食の特徴を理解し、食生活へ生かすことが大切なのである。

しかし、3年生の子どもが、実生活において、食文化についてを考えたりする機会は少ない。

そこで、本題材では、子どもに、日常の食生活にある伝統的な食文化に気付かせる。子どもは、日頃、意識することなくしていた、はしのもち方等も食文化の一つであることがわかる。そうすることで、子どもは、今まであまり考えたことのなかった食文化についてを考え、食文化が自分の食生活ともかかわりがあることに気付く。そして、子どもの食生活の中で実践につなぐ機会にする。子どもが、それらを日常の食生活の中で続けて行うことが、食文化をつなげるために大切であることを考えられるところに本題材の価値がある。

3 本題材で目指す姿

和食の要素を視点に自分の食生活を見直し、その考えを食生活に取り入れることが、和食を継承することになるととらえ、実践に取り組む子ども

具体的には、和食の作法を知り、和食が続くようにするために、自分に何ができるかを考え、自分ができることを食生活の実態と関係付けて考え、実生活で具体的にどのように生かすかを考える姿。

4 本題材で育成する資質・能力

①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○和食に関する知識	○自分の食生活の課題を見いだす力 ○和食を継承するためにできることを考える力	○和食の作法に基づいて食事をしようとする態度（食育） ○自己決定したことを継続して取り組もうとする態度（特別活動）

5 指導の構想

和食について理解を深め、和食のよさを感じている子どもに次のように働き掛ける。

働き掛け1

ゲストティーチャーの話から考えたことを問う。

子どもが、和食についての知識を深め、和食のよさを考えるための働き掛けである。

始めに、ユネスコ無形文化遺産に和食が登録されていることを話す。子どもは、なぜ、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されているのか疑問をもつ。子どもは、和食には自分たちにも知らないよさがあるのではないかと予想する。そこで、子どもが、和食のよさ実感をとまなび理解できるように、和食の料理人「和食マイスター」をゲストティーチャーとして迎える。

和食を伝統的な食文化全体ととらえさせるために、ゲストティーチャーに、和食の4つの要素（食材、調理、献立、配膳・作法）を具体物を例に話をしてもらい、和食独自の包丁づかいや食材の取り扱いなどを見せてもらう。子どもは、和食を構成する要素を知り、和食は、今まで自分が思っていたものだけではないことに気付く。また、実物を目にすることで、和食の美しさを実感する。子どもは、古くから日本で大事にされてきた、食材への思いや食事のあいさつの意味を知ること、他国にはない日本独自の和食文化とそのよさに気付く。子どもは、予想した通り、和食のよさが認められて、ユネスコ無形文化遺産に登録されたと考えている（食育①知識・技能）。

最後に、ゲストティーチャーが、一人ひとりが自分ができることを見つけ、「マイスター」を目指してほしいと伝える。子どもは、ゲストティーチャーのような和食マイスターにあこがれをいだき、和食マイスターになりたいという思いはあるが、なぜ、和食マイスターが一人ひとりに「マイスター」を目指してほしいと言っているのか、理由を考えるまでには至っていない。

----- 本時ここから -----

働き掛け2

提示された資料から考えたことを問う。

子どもが、提示された資料から、「マイスター」になる理由を考えるための働き掛けである。

なぜ、ゲストティーチャーが子どもに「マイスター」を目指してほしいと言ったのか、その理由を考えさせる手掛かりとなりそうな資料を提示する。子どもは、資料から、米を食べる人が減っていること、はしを正しくもつことができない人が増えていることがわかる。このまま、正しくはしを使うことなど、和食に関わることができない人が増えるとどうなるかを問う。子どもは、できない人がふえると、和食は続かなくなるのではないかと、なくなってしまうのではないかと考える（食育①知識・技能、③態度）。子どもは、ゲストティーチャーは和食がなくならないようにするために、みんなが「マイスター」になることで、和食がなくならないようにしてほしいと思っているのではないかと予想する。しかし、子どもは自分の食生活とのかかわりで考えていないため、社会の問題として考えている状態である。

そこで、子どもの実態調査の結果を提示する。子どもは、実態調査から、自分たちもできていないことがあったり、できていると思っていることもできていなかったことをとらえる。

子どもは、自分が「マイスター」になるために必要なことは何かを考える（食育②思考力・判断力・表現力）。

働き掛け3

マイスターになるために必要なことを問う。

自分の食生活と関係づけて、どんな「マイスター」を目指すのか見通しをもたせるための働き掛けである。

子どもは、「マイスター」になるために、どうすればよいかを考えている状態である。子どもに、マイスターになるための視点として、和食の4つの要素を想起させ、思考ツール（エックス

チャート)を提示し、子どもの考えを記述させる。その際、グループで話し合うよう指示する。思考ツール(エクスチャート)を使うことで、子どもに、和食の要素に基づいて解決策を考えさせ、要素に即した具体的な解決方法を考えさせるためである。また、グループで話し合わせることで子どもに、話し合いの中で、自分になった視点を得ることができるようにするためである。その後、班で話しあったことを発表させる。子どもに、考えの交流をうながし、自分の考えと友だちの考えを関係付けたり、比較しながらよりよい解決方法を見いださせるためである(協働性、ツール活用能力)。

働き掛け4

マイスターになるために、自分が取り組みたいことを問う。

実行可能な取り組みを自己決定するための働き掛けである。課題解決へ向けて見通しをもった子どもに、これから自分が取り組みたいことを理由とともに記述させる。子どもは、**自分の経験に基づいて考える**という特別活動の「見方・考え方」を働かせ、和食を構成する要素を視点に自分の食生活の課題を見出し、和食を継承するためにできることを考える力(食育②思考力・判断力・表現力)を発揮し、自己決定する。そして、**和食の要素を視点に自分の食生活を見直し、その考えを取り入れることが和食を継承することになるとらえ、実践に取り組む子ども(食育③態度)(特別活動③態度)**になる。
なお、本時では見取ることができない、態度面については、給食時間を活用し、実践することができるかを判断する。

6 指導計画 全2時間(6Q)

- めざせ!和食マイスター — 和食っていいな— (事前指導)
- めざせ!和食マイスター — 続けよう 和食 — (本時)
- めざせ!和食マイスター — 続けよう つなげよう 和食 — (事後指導, 給食時間)

7 本時の構想<第1日目> 2/2時間(45分授業)

(1) 本時のねらい (本時 2/2時間目)

和食の現状がわかり、和食の現状をよくするために、自分の食生活の中で何ができるかをとらえ、具体的な実践方法を考えることができる

食育の視点

- 和食について理解を深め、日常の食生活の中で和食を継承しようとする視点をもつことができる

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>2 提示された資料から考えたことを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> 料理だけだと思っていたけど、和食の要素が4つそろって、和食になることを知った なんで、佐野さんはマイスターになってほしいって言ったのかな 米を食べる量が減っている 米は和食の中でも大事なものだって言った 正しいはしのもち方ができている人も減っている できる人が少なくなる できる人がどんどん少なくなるとなくなってしまうかも知れない 自分たちのことはよくわからない このクラスでもそうだったなんて知らなかった 自分はどうかろう。はしの持ち方がよく分からない 自分たちもそうだったし、できない人が増えていくと、料理とかだけ知っていて、どうしてかという、和食は、料理とかだけではなくて、他の作法とか配膳とかもあるからです 知らない人が増えると、和食をする人がだ 	<p>※前時を振り返らせる</p> <p>○発問「この資料からどんなことがわかりますか」 ※米の消費量の変化グラフ(資料1) ※はしの正しいもち方ができる人の年齢別年次推移(資料2) ○発問「このままできない人が増えていくと和食はどうなるでしょう」</p> <p>○発問「みんなはどうですか」 ○指示「このグラフを見てください」 ※資料3, 4 ○発問「この資料から、どんなことを考えましたか」【働き掛け2】 (学級担任)(栄養教諭)</p> <p>○学習問題を提示する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>マイスターになるために、必要なことは何か</p> </div>

んだん少なくなってしまう
・和食は、日本のいいところがいっぱいなのだから、守った方がいいと思います
☆食育②思考力・判断力・表現力

3 マイスターになるために、必要なことを考える

- 私は、食器の置き方をがんばりたい。簡単にできそう
- 日直さんの合図で食器の置き方を確認したら、みんなでそろえられそう
- はしの正しいもち方ってどうすればいいのかな。正しいもち方をがんばりたいけど、どうしたらいいかわからない
- 自分が正しいもち方かどうかかわからない
- はしの正しいもち方ができている人に聞けばいい
- こうやってもてばいいよ。ぼくは、前は、はしがうまくもてなかったけど、お父さんに言われて今は正しいもちかたができます。なれるまでは大変だったけど、なれてしまったら、前のもち方を忘れてしまいました
- 何回か、はしのもち方を直そうとしたけど、できなかった。直した友達の話聞いて、なれるまでやってみようと思った
- 食器をもって食べるは、自分で気づくのは、大変そう。大事なことだけど、がんばるのは大変そうだな
- 今までできていたこともあった。これからも続けよう

☆協働性、ツール活用能力

○指示「マイスターになるために、必要なことを問う」

【働き掛け3】(学級担任)(栄養教諭)
※エクスチャートに、がんばりたいこと、これからも続けたいことを記入させる

○指示「グループごとに発表してください」
※「はし」「食器」の準備
※エクスチャート

4 マイスターになるために、自分で取り組むことを書く

- 私は、食器マイスターになりたいです。食器をもって食べるのは、日本だけだと知って、日本だけのことを大事にしたいと思ったからです。お家でも妹に大事なことから教えたいと思います
- 私は食器のもち方マイスターになりたいです。食器をもって食べることを忘れることがあるからです。はしを正しくもったり、食器をもって食べたりしてました。今まで知らなかったけど、続けることが、和食を守るためにもいいことだわかったので、これからも続けたいです。
- はしマイスターになりたいです。どうしたらいいかわからなかったけど、友だちの意見を聞いて、直し方についてヒントがもらえました。長く続けるようにしたいです

☆食育②③、特別活動③

○指示「あなたは、どんなマイスターをめざしますか。めざしたいマイスターとどうやってマイスターをめざすのか、書きましょう」
【働き掛け4】(学級担任)

※ワークシート

(3) 評価

普段の食生活で行っていることが、和食文化の継承にかかわることに気づき、食文化の継承という視点を持ち、自分の食生活へ生かそうとしているかをワークシートの記述で評価する。